

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 東北財務局長

【提出日】 平成29年7月14日

【四半期会計期間】 第2期第1四半期(自平成29年3月1日至平成29年5月31日)

【会社名】 ダイユー・リックホールディングス株式会社

【英訳名】 DAIYU・LIC HOLDINGS CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 浅倉 俊一

【本店の所在の場所】 福島県福島市太平寺字堰ノ上58番地

【電話番号】 024(563)6818(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役経営戦略室長 三瓶 善明

【最寄りの連絡場所】 福島県福島市太平寺字堰ノ上58番地

【電話番号】 024(563)6818(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役経営戦略室長 三瓶 善明

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第2期 第1四半期 連結累計期間	第1期
会計期間		自 平成29年3月1日 至 平成29年5月31日	自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日
売上高及び営業収入	(千円)	20,619,358	65,894,966
経常利益	(千円)	756,091	1,902,254
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(千円)	500,514	1,108,740
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	502,362	1,108,077
純資産額	(千円)	12,864,260	12,557,547
総資産額	(千円)	55,593,643	52,381,208
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	33.94	88.69
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	33.77	88.22
自己資本比率	(%)	21.2	22.0

(注) 1. 当社は、平成28年9月1日に株式会社ダイユーエイト及び株式会社リックコーポレーションが、共同株式移転の方法により両社を完全子会社とする株式移転設立完全親会社として設立されました。設立に際し、株式会社ダイユーエイトを取得企業として企業結合会計を行っているため、前連結会計年度(平成28年3月1日～平成29年2月28日)の連結経営成績は、取得企業である株式会社ダイユーエイトの前連結会計年度の連結経営成績を基礎に、株式会社リックコーポレーション及びその関係会社の平成28年9月1日～平成29年2月28日の経営成績を連結したものであります。

2. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

3. 当社は平成28年9月1日設立のため、前第1四半期連結累計期間に係る記載はしておりません。

4. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

5. 前連結会計年度の1株当たり当期純利益金額は、当社が平成28年9月1日に株式移転によって設立された会社であるため、会社設立前の平成28年3月1日から平成28年8月31日までの期間につきましては、株式会社ダイユーエイトの期中平均株式数に株式移転比率を乗じた数値を用いて計算しております。

#### 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

なお、当第1四半期連結会計期間において、報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項(セグメント情報等) セグメント情報」の「3. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご参照ください。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当社は、平成28年9月1日に株式会社ダイユーエイト及び株式会社リックコーポレーションが、共同株式移転の方法により両社を完全子会社とする株式移転設立完全親会社として設立されました。設立に際し、株式会社ダイユーエイトを取得企業として企業結合会計を行っているため、前連結会計年度(平成28年3月1日～平成29年2月28日)の連結経営成績は、取得企業である株式会社ダイユーエイトの前連結会計年度の連結経営成績を基礎に、株式会社リックコーポレーション及びその関係会社の平成28年9月1日～平成29年2月28日の経営成績を連結したものであるため、前年同期との比較は行っていません。

当第1四半期連結累計期間(平成29年3月1日～平成29年5月31日)におけるわが国の経済は、上場企業の配当額が5年連続で過去最高を更新する等、企業収益の改善・雇用の拡大もあって景気は緩やかながら回復基調を維持しております。

一方で、原油価格の下落、新興国経済の減速を背景とした世界経済の不安定化のほか、日本銀行によるマイナス金利政策実施の影響も見通せず、依然として先行き不透明な状況が続いております。

個人消費は、消費税率引き上げ後の需要の弱さを可処分所得の増加でカバーできない構造から横ばいの状況にあり、「低価格志向・節約志向」といった消費マインドも根強く、本格的な個人消費の回復には至っていない状況にあります。

このような状況下、当社グループは、経営統合後のシナジー効果創出のため、商品統合により着実に荒利益率の改善を進めているほか、さらなる成長戦略実現のために当第1四半期連結累計期間におきましても以下のとおり積極的に新規出店を行いました。

ダイユーエイトにおいて「ホームセンター白河店」(開店3月 福島県)「ワンズサイクル会津若松駅前店」(開店3月 福島県)、アミーゴにおいて「ペットワールドアミーゴ小名浜店」(開店3月 福島県)、ジョーカーにおいて「DOG&CAT JOKER東急百貨店たまプラーザ店」(開店3月 横浜市)「DOG&CAT JOKER WANCOTT店」(開店3月 横浜市)の出店により、当第1四半期連結会計期間末の店舗数は、187店舗となりました。

また3月1日には、ダイユーエイト及びリックコーポレーションのペット事業を統合・分社化して(株)アミーゴを設立したほか、(株)アレンザ・ジャパン(輸入卸売事業)を完全子会社化したことで、一連のグループ内組織再編が終了いたしました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間における当社グループ(当社及び連結子会社)の連結売上高は199億3千8百万円、連結営業利益は7億6百万円、連結経常利益は7億5千6百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は5億円となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

#### 〔ダイユーエイト〕

ホームセンター事業は、既存店ベースで、客単価が前年同期比で2.3%増加しましたが、客数が前年同期比で2.5%減少したことから、既存店売上高は0.2%減少いたしました。

売上高における既存店ベースでの商品別販売動向につきましては、春先は灯油販売額が伸長するような低温と天候不順により、前年同期と比較して季節商品販売の出足が鈍い状況にありましたが、ゴールデンウィークを境によりやく気温が上昇し、園芸、植物、用土、肥料等の売上が伸長いたしました。また、当社が注力しております木材塗料、工具金物、作業資材、作業衣料等のホームニーズ関連商品が前年対比で売上を伸ばしたほか、日用品、家庭用品等の売上も堅調に推移し、あらためて生活用品需要の底堅さを感じる期間となりました。

当期は、他業態との差別化を念頭に、従来から進めておりました「ホームセンターらしさ」をさらに強化するため、農業関連資材用品の専門パイヤーを配置し、農家需要へ対応すべく品揃えを強化いたしました。その他、防犯防災用品の強化に努めたほか、既存の概念にこだわらない新たな視点での商品組合せにより、お客様に対し需要創造を喚起いたしました。

「働き方改革」としては、社内に「働き方改革プロジェクト」を立ち上げ「ワーク・ライフ・バランス」実現のため、会社・社員の両視点から改善策の検討をしております。

これらの結果、ダイユーエイトにおけるセグメント売上高は102億2千3百万円、セグメント利益(営業利益)は4億9百万円となりました。

#### 〔リックコーポレーション〕

ホームセンター事業は、既存店ベースで、客単価が前年同期比で0.4%の減少しましたが、客数が前年同期比で0.4%増加したことから、既存店売上高は0.01%増加いたしました。

売上高における既存店ベースでの商品別販売動向につきましては、前年に比べて天候が安定していたこと、チラシ掲載商品の価格訴求を強めたことから客数の増加につながりました。一方でハッピープライス(生活応援品の月間特売)等の推進により一点当たりの商品単価が下落し、客単価が減少するという状況となりましたが、総じて堅調に推移いたしました。また、酒税法の改正に伴う酒類の値上げ前の駆け込み需要も売上高増加の要因となっております。

そのような状況の中で、更なる集客力の向上を図り、家族で楽しく過ごせる地域密着型ホームセンターへ進化するため、子供の日のイベントや母の日似顔絵コンクールの実施、60歳以上の方を対象とした割引セールを行う等、ロイヤルカスタマー政策を実行し、ニューファミリーからシニアまでの幅広い年齢層の顧客に感動していただけるようなサービスを行っております。また、工務店や農家のプロ需要にも対応できるように、プロニーズプロジェクトや勉強会を実施し、品揃えの充実や人材の育成を図っております。その他、商品の機能や特性をわかりやすく比較表示したり、商品のサンプルやプロモーション動画等の販促物を活用することでお客様に新たな発見をしていただけるよう様々な形で提案を行っております。

販売費及び一般管理費につきましては、備品消耗品や水道光熱費の節約奨励や、作業計画に合わせた綿密な人員配置を行うことで残業時間の大幅な削減を進めている他、業務委託費用等の間接費の見直しを行うことで必要コストの圧縮を行っております。

これらの結果、リックコーポレーションにおけるセグメント売上高は42億4千4百万円となり、セグメント利益(営業利益)は1億9千8百万円となりました。

#### 〔アミーゴ〕

アミーゴはダイユーエイト、リックコーポレーションのペット事業を統合・分社化し、3月1日より全国60店舗展開で事業をスタートいたしました。

ペット事業は、既存店ベースで、客単価が前年同期比で0.3%の増加しましたが、客数が前年同期比0.4%減少したことから、既存店売上高が0.1%減少いたしました。

ペットの健康、美容にこだわりを持つオーナー様が増加傾向であることから、主力商品であるプレミアムフードを中心とした専門店商品の販売力が向上したこと、マイクロバブル、炭酸泉といったトリミングに付加価値をプラスしたサービスの普及が進んだことにより客単価を伸ばさせることができた一方で、他業態を含む競合他社による新規出店、価格競争の激化等の外部環境要因による客数の減少により、ペットシーツ、猫砂等の消耗品の販売数が減少したことが売上高減少の要因となっております。

そのような状況の中で、ダイユーエイト、リックコーポレーション両社の仕組み・ノウハウを継承したアミーゴは、それぞれの取り組み、サービスを全店舗に水平展開し、全店統一したサービスの実現に取り組んでおります。従来の愛玩動物である犬、猫に追随する様に、飼育しやすくトレンドになっているウサギ、ハムスターなどの小動物、爬虫類の販売強化、イベントの取り組み、専門知識を有した従業員の育成強化等の量販店とは一線を画した店づくりに徹することにより、ペット専門店としてのアミーゴブランドの確立に努めております。

これらの結果、アミーゴにおけるセグメント売上高は38億6千万円、セグメント利益(営業利益)は4千9百万円となりました。

#### 〔その他〕

セグメント売上高は32億2千6百万円、セグメント利益(営業利益)は1億1千4百万円となりました。

### (2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比較して32億1千2百万円増加して555億9千3百万円となりました。この主な要因は、現預金の増加および新規出店に伴うたな卸資産の増加等であります。負債は前連結会計年度末と比較して29億5百万円増加して427億2千9百万円となりました。この主な要因は、電子記録債務の増加、短期借入金の増加、長期借入金の減少等であります。純資産は前連結会計年度末と比較して3億6百万円増加して128億6千4百万円となりました。この主な要因は利益剰余金の増加等であります。以上の結果、自己資本比率は21.2%となりました。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	50,000,000
計	50,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年5月31日)	提出日現在発行数(株) (平成29年7月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	15,174,203	15,174,203	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株であります。
計	15,174,203	15,174,203		

(注) 提出日現在発行数には、平成29年6月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれません。

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減額 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成29年3月1日～ 平成29年5月31日		15,174,203		2,000,000		9,104,041

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (7) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成29年5月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 427,400		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 14,582,100	145,821	同上
単元未満株式	普通株式 164,703		
発行済株式総数	15,174,203		
総株主の議決権		145,821	

(注) 当第1四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成29年2月28日)に基づく株主名簿による記載をしております。

## 【自己株式等】

平成29年5月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己所有株式) ダイユー・リック ホールディングス株式会社	福島県福島市太平寺字堰 ノ上58番地	427,400		427,400	2.8
計		427,400		427,400	2.8

## 2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。
- (2) 当社は平成28年9月1日設立のため、前第1四半期連結累計期間に係る記載はしていません。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成29年3月1日から平成29年5月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成29年3月1日から平成29年5月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,105,454	7,571,855
売掛金	555,727	738,894
たな卸資産	13,664,261	14,353,380
その他	1,679,844	1,794,697
貸倒引当金	3,213	3,022
流動資産合計	21,002,074	24,455,804
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	30,006,349	30,197,188
減価償却累計額	17,870,448	18,061,400
建物及び構築物(純額)	12,135,900	12,135,787
土地	4,327,385	4,327,385
リース資産	2,640,333	2,721,216
減価償却累計額	1,115,894	1,179,062
リース資産(純額)	1,524,438	1,542,154
その他	2,885,090	2,782,405
減価償却累計額	1,533,404	1,550,441
その他(純額)	1,351,686	1,231,964
有形固定資産合計	19,339,411	19,237,292
無形固定資産		
のれん	2,501,401	2,469,332
その他	1,741,031	1,768,153
無形固定資産合計	4,242,433	4,237,486
投資その他の資産		
敷金及び保証金	5,361,147	5,290,793
その他	2,498,326	2,434,353
貸倒引当金	62,185	62,087
投資その他の資産合計	7,919,658	7,787,233
固定資産合計	31,379,133	31,137,838
資産合計	52,381,208	55,593,643



(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年5月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	4,688,948	4,927,447
電子記録債務	3,000,477	5,277,340
短期借入金	4,550,000	5,040,000
1年内返済予定の長期借入金	4,374,749	4,251,687
リース債務	530,194	542,038
未払法人税等	259,836	343,654
その他	3,677,562	4,624,345
流動負債合計	21,081,768	25,006,512
<b>固定負債</b>		
長期借入金	13,975,625	13,054,562
リース債務	1,280,870	1,311,606
退職給付に係る負債	432,382	441,855
役員退職慰労引当金	71,670	73,307
資産除去債務	973,424	961,188
その他	2,007,919	1,880,349
固定負債合計	18,741,892	17,722,869
負債合計	39,823,660	42,729,382
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	2,000,000	2,000,000
資本剰余金	4,375,368	4,375,368
利益剰余金	5,249,950	5,558,740
自己株式	164,809	165,058
株主資本合計	11,460,509	11,769,049
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	91,512	83,714
退職給付に係る調整累計額	17,655	15,651
その他の包括利益累計額合計	73,856	68,062
新株予約権	41,614	41,614
非支配株主持分	981,566	985,533
純資産合計	12,557,547	12,864,260
負債純資産合計	52,381,208	55,593,643

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年5月31日)
売上高	19,938,717
売上原価	13,316,064
売上総利益	6,622,653
営業収入	680,640
営業総利益	7,303,294
販売費及び一般管理費	6,596,319
営業利益	706,974
営業外収益	
受取利息	8,372
受取配当金	357
受取手数料	79,285
その他	44,009
営業外収益合計	132,024
営業外費用	
支払利息	52,496
借入手数料	6,014
その他	24,396
営業外費用合計	82,907
経常利益	756,091
特別利益	
固定資産売却益	4,210
受取損害賠償金	46,015
特別利益合計	50,225
特別損失	
固定資産除却損	3,779
特別損失合計	3,779
税金等調整前四半期純利益	802,537
法人税、住民税及び事業税	358,122
法人税等調整額	63,882
法人税等合計	294,240
四半期純利益	508,297
非支配株主に帰属する四半期純利益	7,783
親会社株主に帰属する四半期純利益	500,514

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年5月31日)
四半期純利益	508,297
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	7,938
退職給付に係る調整額	2,003
その他の包括利益合計	5,934
四半期包括利益	502,362
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	494,720
非支配株主に係る四半期包括利益	7,642

## 【注記事項】

(会計方針の変更等)

当第1四半期連結累計期間  
(自 平成29年3月1日 至 平成29年5月31日)

(会計上の見積りの変更)

当第1四半期連結累計期間より、連結子会社である株式会社アミーゴが運営するペット専門店の一部において、通常の販売目的で保有するたな卸資産について、従来、売価還元法による低価法を採用していましたが、売価還元法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)に変更しております。

これは平成29年3月1日付で株式会社ダイユーエイトおよび株式会社リックコーポレーションがそれぞれ営むペット事業を統合・分社化したことにより店舗運営の統一性、効率性を高めることを目的として、仕入・物流・販売に係る基幹システムを変更したことに伴うものであり、平成29年3月1日より新基幹システムが本稼動したことによるものであります。

これにより、従来の方と比べて、当第1四半期連結累計期間の売上総利益、営業総利益、営業利益、経常利益、税金等調整前四半期純利益が44,016千円増加しております。

(追加情報)

当第1四半期連結累計期間  
(自 平成29年3月1日 至 平成29年5月31日)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当第1四半期連結会計期間から適用しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	当第1四半期連結累計期間 (自 平成29年3月1日 至 平成29年5月31日)
減価償却費	404,676千円
のれんの償却額	32,069千円

(株主資本等関係)

当第1四半期連結累計期間(自 平成29年3月1日 至 平成29年5月31日)

## 1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年5月26日 定時株主総会	普通株式	191,707	13.00	平成29年2月28日	平成29年5月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

当第1四半期連結累計期間(自 平成29年3月1日 至 平成29年5月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計
	ダイユー エイト	リックコーポ レーション	アミーゴ	計		
売上高(注)2						
外部顧客への売上高	10,092,662	4,158,662	3,860,421	18,111,746	2,507,612	20,619,358
セグメント間の内部 売上高又は振替高	130,680	85,704		216,384	719,254	935,639
計	10,223,342	4,244,366	3,860,421	18,328,130	3,226,867	21,554,998
セグメント利益	409,459	198,791	49,645	657,896	114,593	772,490

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ダイユー・リックホールディングスにおける取引等のほか、ダイユー・リックホールディングス、ダイユーエイト、リックコーポレーション及びアミーゴそれぞれの関係会社が含まれています。

(注)2 売上高には、営業収入を含めております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の内容  
(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	657,896
「その他」の区分の利益	114,593
セグメント間取引消去	47,387
のれんの償却額	32,069
固定資産の調整額	13,941
四半期連結損益計算書の営業利益	706,974

## 3. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度より連結子会社であった株式会社アミーゴに対して、3月1日付でダイユーエイト、リックコーポレーション両社のペット事業を会社分割したことにより「アミーゴ」を新たに報告セグメントに含めております。

また、前連結会計年度において、報告セグメントとしていた「日敷」は、金額的重要性が乏しいため、「その他」に含めて記載する方法に変更しております。

## 4. 報告セグメントごとの資産に関する情報

前連結会計年度より連結子会社であった株式会社アミーゴに対して、3月1日付でダイユーエイト、リックコーポレーション両社のペット事業を会社分割したことにより「アミーゴ」を新たに報告セグメントに含めております。

当該会社分割により、「ダイユーエイト」の資産の金額が547百万円減少、「リックコーポレーション」の資産の金額が4,233百万円減少し、「アミーゴ」の資産の金額が4,780百万円増加しております。

## (企業結合等関係)

当第1四半期連結会計期間(自 平成29年3月1日 至 平成29年5月31日)

(共通支配下の取引等)

## 1. 取引の概要

## (1) 対象となった事業の名称及びその事業の内容

事業の名称

当社の連結子会社である株式会社ダイユーエイト及び株式会社リックコーポレーションが営むペット事業

事業の内容

国内におけるペット専門店を東ブロックで23店舗、西ブロックで37店舗、オンラインショップ1店舗、計61店舗(平成29年3月1日時点)の運営を行っております。

## (2) 企業結合日

平成29年3月1日

## (3) 企業結合の法的形式

株式会社ダイユーエイト及び株式会社リックコーポレーションを分割会社とし、当社が100%出資する子会社(分割準備会社)を継承会社とする会社分割(吸収分割)

## (4) 結合後企業の名称

株式会社アミーゴ(当社の連結子会社)

## (5) その他取引の概要に関する事項

当企業グループの連結子会社である株式会社ダイユーエイト及び株式会社リックコーポレーションが営むペット事業を主要連結子会社である承継会社に承継させることにより、両社がそれぞれ運営するペット専門店「ペットワールドアミーゴ」を統合・分社化することでマスメリットを追及することを目的として行っております。

当該会社分割により、より専門性を高めることでショップブランドの確立を目指し、全国展開を視野に入れた店舗展開・事業展開に基づき、全社員が行動することでシナジー効果を早期に発揮させることにより地域のお客様の豊かな生活の実現に向けてグループ一丸となって企業努力を続けて参ります。

## 2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成25年9月13日)に基づき、共通支配下の取引として処理をしております。

## (1 株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	当第1四半期連結累計期間 (自 平成29年3月1日 至 平成29年5月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	33円94銭
(算定上の基礎)	
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	500,514
普通株主に帰属しない金額(千円)	
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	500,514
普通株式の期中平均株式数(株)	14,746,563
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	33円77銭
(算定上の基礎)	
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	
普通株式増加数(株)	71,406
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前 連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年 7月14日

ダイユー・リックホールディングス株式会社  
取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 富 樫 健 一 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 満 山 幸 成 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているダイユー・リックホールディングス株式会社の平成29年3月1日から平成30年2月28日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成29年3月1日から平成29年5月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成29年3月1日から平成29年5月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ダイユー・リックホールディングス株式会社及び連結子会社の平成29年5月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。